

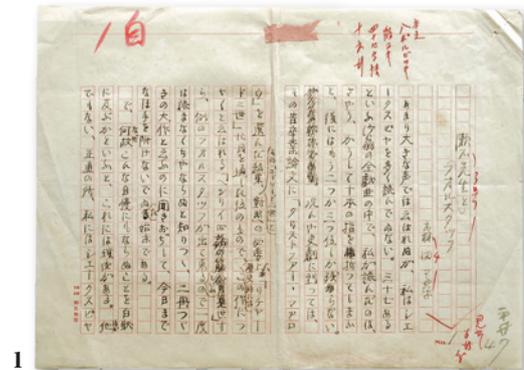
漱石山房記念館《特別展》生誕一四〇年記念 永遠の弟子 森田草平

夏目漱石の門下生の一人、森田草平（一八八一―一九四九）は、今年生誕一四〇年を迎えた。代表作「煤煙」は、明治四十一年（一九〇八）年の平塚らいてうとの心中未遂事件の顛末を小説にしたものである。この作品は、漱石の奨めによったものであるが、小説家としての草平の評価を高め、社会的復活を果たすきっかけとなった。

明治四十二年（一九〇九）年、草平は、漱石が主宰となった朝日新聞の文芸欄の編集を担当し、自身を始め漱石とその門下生を中心に多種多彩な文芸記事を掲載している。しかし、漱石と草平らの考えに距離が生じたこともあり、草平の「自叙伝」をきっかけとして一年十一ヶ月で廃止となっている。

このうち草平は、『輪廻』などの長編小説、そして翻訳、更に歴史小説も発表した。漱石作品の研究、漱石の伝記や漱石に関する随筆も多く発表している。著書の『夏目漱石』『続夏目漱石』は、同門の小宮豊隆の『夏目漱石』とは好対照な内容として評価がある。草平は、晩年に至るまで、漱石の弟子であることを宣言し、「私は、いわゆる門下生の中でも一番よく先生を知っていたとは言われない。一番多く先生から可愛がられたとは、なおさら言われない。が、一番深く先生に迷惑をかけたことだけは確かである。迷惑をかけたということは一向自慢にはならない。ただ、そういう自覚を持った時、私は一番先生に接近するような気がする。」と述べている（森田草平「先生と私」）。

本展では、草平と漱石の師弟の交流に注目し、漱石永遠の弟子を自称した作家・森田草平に迫る。



1 森田草平「漱石先生とフォルスタッフ」原稿（昭和9年）



2 金の丸眼鏡 森田草平記念館蔵



3 森田草平『煤煙』第1巻 訂正再版（金華堂・如山堂、明治43年）



4 森田草平『自叙伝』初版（春陽堂、明治44年）



5 森田草平『輪廻』初版（新潮社、大正15年）



6 夏目金之助 森田草平宛はがき（明治40年7月2日）寄託資料



《交通のご案内》

電車：東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分
都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分
バス：都営バス（白61）「牛込保健センター前」より徒歩2分
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

関連イベント 記念講演会 ※要申込

●「平塚らいてう・草平・漱石——微妙な三者関係」

日 時：11月20日（土）14時～15時30分
講 師：佐々木英昭（元龍谷大学教授）
申 込：11月1日（月）必着
会 場：新宿区立漱石山房記念館 地下1階講座室・多目的スペース
定 員：40名（申込多数の場合は抽選）
料 金：500円（特別展招待券付）

応募方法：往復はがきに、講演会名・住所・氏名・電話番号・メンバーズ倶楽部会員は会員番号を明記の上、漱石山房記念館へ。当館ウェブサイトからもお申込みいただけます。

※新型コロナウイルス感染症対策のため受講者数を制限しています。
※講演内容は後日当館ウェブサイトにて無料配信いたします。

●オンライン・ギャラリートーク

館内及び YouTube チャンネル「レガスちゃんねる by 新宿未来創造財団」で担当学芸員による展示解説映像の放映を予定しています。詳しくは当館ウェブサイトをご確認ください。

次回展示

通常展《テーマ展示》所蔵資料展 手紙（仮題）

令和3（2021）年12月2日（木）～令和4（2022）年4月10日（日）

※11月30日（火）、12月1日（水）は展示替のため臨時休館いたします。

新宿区立漱石山房記念館
（公益財団法人新宿未来創造財団）

〒162-0043 東京都新宿区早稲田南町7
TEL.03-3205-0209 FAX.03-3205-0211
<https://soseki-museum.jp/>

※国内の状況により、記載内容に変更が生じる場合がございます。また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止し、皆さまに安心してご鑑賞いただくために、必要な対策を講じて開館しております。詳細は当館のウェブサイトにてご確認ください。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。